

公益財団法人まちみらい千代田
第12期第3回評議員会 議事録

1 日時

令和6年12月17日(火)午前10時00分から午前11時7分

2 場所

ちよだプラットフォームスクウェア 4階401会議室

3 評議員現在数

9名

4 出席者

(1) 評議員(7名)

高山肇(副会長)、親泊哲、川瀬普也、熊谷エイ、高橋陽子、谷真理子、山本久喜

(欠席者) 鈴木潔(会長)、田近恭一

(2) 理事(2名)

細越正明(副理事長)、依田昭夫(副理事長、事務局長事務取扱)

(欠席者) 坂田融朗(理事長)

(3) 事務局

事務局長 依田昭夫

堀切俊秀グループマネージャー(以下、「GM」という。)、加藤英明GM、中元邦博GM

5 議題

[報告事項]

(1) 第12期事業実施状況中間報告

6 開会、副理事長あいさつ、定足数確認、議事録署名人の選任

開会に先立ち、事務局が配付資料の確認を行った。定款第25条により、評議員会の議長を務める鈴木会長が欠席となったため、定款第16条第4項により、高山副会長が代わりに議長を務めることとなり、開会を宣言した。坂田理事長が欠席のため、細越副理事長にあいさつを求めた。副理事長のあいさつに続き、議長が本日の出席評議員について、事務局に報告を求めた。事務局から出席者と定款第26条の規定に定める定足数を満たしていることを報告し、議長が本評議員会は有効に成立している旨を宣告した。

次に本評議員会の議事録署名人として、事務局から定款第30条第2項の規定により、本日出席の川瀬評議員と高橋評議員の2名を提案したところ、満場一致の賛成があり、議長が両評議員を指名したと

ころ、本人もこれを承諾した。その後、議題に入った。

7 議事の経過および結果

[報告事項]

(1) 第12期事業実施状況中間報告

依田事務局長が、第12期事業実施状況中間報告の概要について説明を行った。また、当財団の広報紙「NEWS まちみらい」について、区広報紙に折り込みをして全戸配布を行っているが、令和7年3月20日号をもって廃刊することとし、今後は紙媒体による広報からデジタルによる広報を基本とし、対象者（区民・事業者等）別によりわかりやすく、適時、情報発信及び広報を行っていくことを報告した。最後に、8月22日前回の評議員会で指摘のあった「第11期決算」における「公益法人認定基準」に係る「収支相償基準」「公益目的事業基準」「遊休財産制限」はいずれも現時点でクリアしていることを報告した。

その後、各GMから担当事業の詳細について、報告を行った。

住宅まちづくりグループの事業は、堀切GMが報告を行った。

産業まちづくりグループの事業は、加藤GMが報告を行った。

協働まちづくり・総務グループの事業は、中元GMが報告を行った。

なお、報告後に以下の質疑があった。

(評議員)

事業報告・交流会は賛助会員等に向けて実施しているが、ビジネス起業塾の受講者やさくら再生基金に支援した方、まちづくりサポート事業で助成したグループ等に対しても広く参加を呼び掛けた方が、財団に対する認知度の向上や財団事業に対する理解や共感をより高めることができ、また参加者同士の交流をより深めることができるのではないかと。

(事務局)

来期（13期）に向けては事業実績の進捗率等を踏まえた上で、対象者を検討していく。

(評議員)

財団広報紙が3月で廃刊するとのことだが、現状のウェブサイトやSNSの実績ではフォロワー数や情報発信数が少ないが、どのようにフォローしていくのか。高齢化社会の中でウェブサイトを見る方は少ないと思うが、何か方法を考えているか。

(事務局)

財団広報紙を廃刊する代替として、区民を対象にする情報などは区の広報紙に掲載していく。

(評議員)

掲載スペースは広くもらえるのか。

(事務局)

掲載スペースは少し小さめにはなってしまうが、詳細情報を掲載しているウェブサイトへ誘導させることを考えている。SNSについては、情報発信する内容を整理して今後はさらに効果的に活用していく。デジタル化の流れは変えられないので、見てもらえるような広報媒体を検討していく。

(評議員)

紙媒体は大切だと思うので、取り残される人がないようにしてほしい。

(事務局)

様々な手段を活用して、財団を知ってもらえるような機会をつくっていく。

(評議員)

企業であれば紙を減らしていくことはあるが、公益財団として事業の普及啓発は公益的な意義がある。紙媒体であれば送られてきたものを目にする機会もあるが、高齢者社会の中で SNS を中々自分から見に行こうとはしないので、代替でできるだけ関心を持てるような方法を検討してほしい。

(評議員)

広報紙の配架場所を増やすなどして、目にする機会をつくらないと関心が持てない。

(評議員)

広報紙に QR コードがあればそれを読み取って詳細な情報を取得できるのではないか。

(事務局)

紙面に限りがあるが、QR コードを上手く活用していく。

(評議員)

1 点目に、DX(ICT)導入・活用相談について現状のところ実績は 0 件だが、今後どのように活用していくのか。また、どのような方がアドバイスを行うのか。

2 点目に、ちよだ地方連携ネットワーク事業の支援について、ちよだグルメショップ+A の活動以外にはどのような活動をしているのか。

(事務局)

1 点目については、チラシ等を作成して周知を行っているところである。東京商工会議所を含めた関係団体と連携して周知活動を広げていく。アドバイザーは中小企業診断士であるが、SE を長年やっていた方や NTT データで専門の知識を持っている方を確保している。

2 点目については、ちよだグルメショップ+A の物産の周知だけを行っている。それ以外については、千代田区でサポートしている。直接的に財団が担っていることではないが、プラットフォームサービス社がインキュベーション施設を行っているが、1 階にあるちよだグルメショップ+A と「しまゆし」という地方をテーマにしたお店や、地方にいる人材をインターンで受け入れたりして、人材育成や人材交流を行っている。財団としては民間と連携しながら地方との連携を進めているので、他の方法も区と協議しながら、今後も継続して力を入れて取り組んでいく。

(評議員)

地方との連携に関して、千代田区商工業連合会などでお役に立てることがあると思うので、今後も連携していきたい。

(事務局)

千代田区商工業連合会で行っている観光まちづくり実行委員会などがあると思うが、今後は連携していきたいと考えているのでアドバイス等いただければと思う。

(評議員)

回答は必要ないが、マンション再生方針検討助成に関して、実際には助成を申請していないマンション

管理組合においても、建物再生の方針の検討は結構行われているのではないかと思います。その上で、事前調査の費用やコンサルタント費用等をもう少し具体的に例示したりすると、実績がもっと伸びるのではないかと。延いては、マンション再生計画検討助成にもつながっていくと思う。

(評議員)

デジタル広報に関して提案だが、Facebook や Instagram、LINE を活用すると積極的に情報発信ができると思うので、先ほどの QR コードを含めて検討していただきたい。

(事務局)

今後については情報発信手段を広げていく方向で検討している。

8 閉会

以上をもって本評議員会はすべての議案の審議を終了したので、午前 11 時 7 分に議長は閉会を宣言した。

上記の決議を明確にするため、議長および評議員がこれに署名、押印する。

令和 6 年 12 月 17 日

公益財団法人まちみらい千代田
第 12 期第 3 回評議員会

議 長

議事録署名人

議事録署名人